

10 国際業務、海外勤務、海外留学

経済や社会がグローバル化する中で、厚生労働行政においても、国際的な見地から政策課題に取り組むことも不可欠になってきています。以下では、数理職員が活躍する国際業務についてご紹介します。

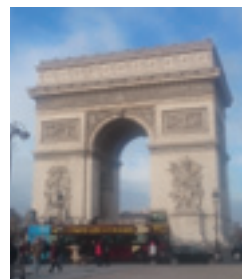
国際業務 >>> 大臣官房国際課

厚生労働省の国際業務は、大臣官房国際課が中心となり、保健医療(Health)・労働(Labour)・社会保障(Welfare)等の分野の国際的な課題に積極的に対応しています。主な施策として、①国際機関への参加・協力、②「人づくり」を通じた国際社会への貢献、③対外経済問題への対応、④海外情報収集・提供などがあります。

大臣官房国際課には、現在2名の数理職員が配属され、それぞれ以下の業務を担当しています。

国際経済機関係

経済協力開発機構(OECD)は加盟国のデータ・政策を収集し、議論を通して政策提言や政策調和を行っています。国際経済機関係では、厚生労働省の連絡役として、議論に必要なデータの授受や、OECDの作成する公表資料の事前協議に対応しています。その中で数理職員は、主に労働・移民・年金分野の調整を担当しており、年数回、パリ等で行われる国際会議にも出席し、加盟国間の議論に直接参加するとともに、日本が進めている政策について紹介しています。



パリの凱旋門

海外情報係

海外情報係では、諸外国の社会保障、雇用・労働、保健医療政策の実態などについて情報収集を行い、関係部局へ情報提供を行っています。収集した情報は、毎年海外情勢報告として取りまとめ、公表しています。その中で数理職員は、専門的な知見を生かして分野横断的な情報収集を行い、取りまとめたうえで、省内外に情報提供しています。

海外勤務 >>> 在外公館(大使館等)

厚生労働省職員としての経験を一定程度積んだ後、厚生労働分野のアタッシュ(担当官)として、大使館等の在外公館で勤務する機会もあります。相手国政府は、少子高齢化が進んでいる日本の様々な制度、日本政府の対応ぶりに関心を持っています。厚生労働分野のエキスパートとして、政府機関、様々な関係団体、国際機関等に説明、交渉することも多く、ハードではありますがやりがいを感じる仕事であり、国際的なフィールドで幅広い経験を積むことができます。

海外留学 >>> 大学院等

国際的な行政官を育成することを目的とした「行政官在外研究員(海外留学)制度(長期・短期)」があり、以前から数理職員も派遣されています。

<派遣者より>ロンドン大学(UCL)でヘルスデータサイエンスを勉強しています。様々な国からの留学生が集まる国際的な環境で英語漬けの毎日です。英国では様々な医療情報が匿名化された状態で利用可能で、データベースを活用した研究も盛んです。日本でもこのような手法が重要になってきていますが、大規模データを分析し有益な情報を探し出す力を身につけ、職務に活かしたいと思います。



1827年建造の歴史ある建物です。中は図書館になっています。